

平成20年4月発行



神奈川病院 広報誌

神奈川病院だより

第23号



独立行政法人 神奈川病院の理念 国立病院機構

基本理念：私たちは、地域の皆様から信頼される病院づくりに努め、常に新しく良質な医療の提供をいたします。

副院長 加勢田 静

新年度にむけて

神奈川病院は独立行政法人に移行し5年目を迎えます。大型医療機器は、18年度のMRIにつづき、20年度は64列のCTスキャンが10月に稼働予定です。64列のCTスキャン導入により、心疾患とくに冠動脈狭窄の評価が心臓カテーテルを行わずにできるようになり、患者さんにとって大変な福音になるものと考えています。

卒後研修制度が変わったことにより、多くの医療施設で医師確保が困難になっています。わたくしどもの病院も例外ではありませんが、わたくしが担当する呼吸器外科は1名増員となり、4名で診療にあたることになりました。手術件数はこの1年で倍増しましたが、今後の患者数増加に十分に対応できます。

5月には小児神経が専門の医師が新たに赴任し、火・木曜日にてんかん外来を始めますが、重心部門の診療体制がさらに充実するものと期待しています。

4月から火曜日も呼吸器科の外来診療を行います。この結果、呼吸器科は月曜日から金曜日まで毎日診療を行うことになりました。また、新たに糖尿病と、乳腺の専門外来を開設する予定です。

神奈川病院はこの数年で大きく変わりました。今後も地域医療に貢献するために職員一丸となって参りますので、皆様のさらなるご支援をいただければ幸いです。



電子カルテシステムについて

副情報システム管理室長 加藤 一郎

平成19年10月にオーダーリングシステム、平成20年2月に電子カルテシステムを導入し、現在、電子カルテシステムによるフル・オーダーが可能になりました。

“オーダーリング”とは診察予約、処方、注射、検体検査、画像検査、処置、リハビリテーション、細菌検査、病理検査、内視鏡検査などに関する指示を、コンピュータ・ネットワークを利用して関連部署に同時に伝えるシステムのことで、“電子カルテ”とは“オーダーリング”に加えて、診療録、外来サマリ、退院サマリ、看護記録などの診療情報を電子的に保存するシステムのことで。

“オーダーリング”を導入すると、従来は紙（伝票）を用いていた様々な指示をネットワーク端末で行うことにより、すべての関連部署に同時に正確な(読みやすい)指示を伝達することが出来るようになります。また、過去の診療行為に関する指示が容易に一覧出来ることも大きな利点です。さらに、“電子カルテ”まで進むと、診療に関する全記録が統合された形で収録されているため、医療従事者が共通の情報を基にして患者さんのケアに当たることが出来るようになります。

紙ベースでの診療録やレントゲン・フィルムの管理は、非常に多くのマンパワーを必要とし、また収納スペースがドンドン増えてしまうことが大きな問題です。電子カルテでは全ての診療情報を電子的に保存することで、省作業・省スペースを実現することが出来ます。副次的なことですが経営上非常に大きなメリットといえます。

神奈川病院が電子カルテシステムを導入した最大の目的は、神奈川病院の医療の質を色々な面で向上させたいと考えたからです。

具体的には以下ようになります。

1. 診療精度の向上

医師によって入力された指示内容が、伝票運用時と比べると判読しやすく、また各部署での転記による間違いが起りにくいなど、診療情報の共有化が進み、診療の精度が向上することが期待されます。

さらに、医療行為の実施記録の入力をシステム化することで、医療行為の発生から実施の完了までの全プロセスを監査することが可能となります。同時に、データをレトロスペクティブ(後ろ向き)に検討することにより、安全な医療の提供体制の実現が可能となります。

2. 医療の適正化

クリティカル・パスを電子カルテに組み込むことで、医療の標準化の推進や医師のオーダーのチェックが可能となります。様々な方面からのチェック、例えば処方の極量チェック、重複の防止といったものから、病名や検査データを参照することによる禁忌薬剤のチェックなどの高度の監査が可能となり、不適切な医療を防止することが出来ます。

3. チーム医療の支援

情報の共有化を推進することにより、診療科をまたぐ医師同志の連絡手段としてはもちろん、コメディカルを含めた院内の連絡を円滑にして、統合されたより良いチーム医療を提供することが可能になります。

外来患者さんはもちろん、入院患者さんを24時間体制で診療するためには、各部門の連携は必須で、電子カルテはチーム医療を円滑に進めるための極めて大切なツールになるはずです。

4. 患者サービスの向上

各部門間の情報伝達が迅速化と、各部門内の業務の効率化で待ち時間の短縮が可能となります。

また、診療や検査の予約を一元管理することにより、予約の重複や脱落などのトラブルが解消されます。患者さんへの情報提供も充実したものになって行くと思います。

5. 病診連携の充実

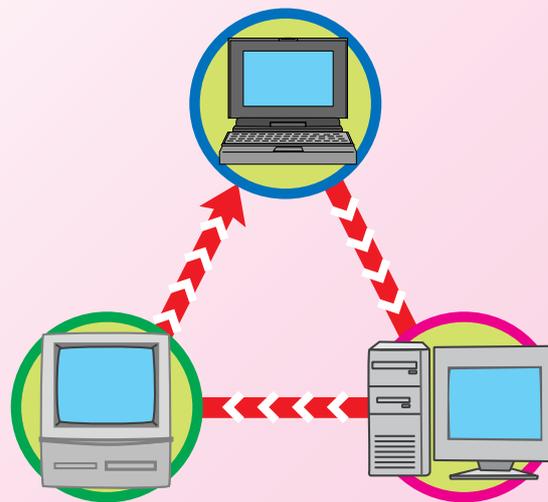
当院の導入した電子カルテシステムはWEBタイプと言われるもので、従来の電子カルテと比較して、診療所との連携が採りやすいシステムであります。今後、MRIやCTの共同利用や、開放型病棟(オープンベッド)の運営などに大きな力になるのではないかと考えています。

6. 病院経営の支援

電子カルテシステムの重要な構成部門システムである患者管理・病床管理システムや医事会計システムなどに蓄積される情報を有効に使用することにより、原価計算など病院経営に必要なデータを作成することが出来るようになります。

神奈川病院の電子化はまだ端緒に着いたばかりですが、電子カルテを積極的に活用することで情報の共有化を促進し、診療の効率化・質の向上、チーム医療の充実、安全性の向上、患者サービスの向上を目指して行きたいと思っております。

ご支援をお願いいたします。



地域医療機関紹介

湘風クリニック

院長名 正山 泰 診療科目 内科・呼吸器科
所在地 秦野市鶴巻北1-1-5 産興鶴巻ビル202
電話番号 0463-77-8401 <http://www.mc-strada.com>
診療時間 AM 9:00~12:00 PM 1:30~5:30
休診日 土曜・日曜



当院は、開業当初から在宅医療を中心に、秦野・伊勢原・平塚西部地区で訪問診療を行っております。通院困難な患者さま宅を定期的に訪問診療し、病態の安定維持に努め、増悪時は緊急往診して病態安定化を図ります。当院の患者さまには、休診日も含め24時間連絡が取れるようにしてあります。このようなシステムで呼吸器疾患に限らず、脳梗塞後遺症や認知症、老衰から、がん末期の在宅看取り希望にも対応しております。病状悪化時も、出来るだけ、患者さまが望まれている在宅環境で回復するように、治療を行います。しかし、入院治療が最善と考えられる場合もありますし、私が一日中、一人の患者さまに寄り添うわけには行かず、ご家族が見切れない場合もあります。そんな時、連携して頂いている神奈川病院は強い味方です。入院や検査を打診すると、いつも快く対応して下さい、感謝しております。在宅医療は、病診連携なくしては成り立ちません。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



秦野北クリニック

院長名 内藤 宗生 診療科目 内科・小児科・皮膚科・アレルギー科
所在地 秦野市戸川605 電話番号 0463-75-1121
診療時間 AM 9:00~12:00 PM 3:00~6:00
休診日 日曜・祝祭日・木曜午後・土曜午後



当クリニックは昭和61年9月1日秦野市戸川に開業して本年にて22年目を迎えます。私自身は平塚市に生まれ、高校迄の18年間を過ごしましたが、母親の出身が渋沢の堀川で偶然にも当地の地主さんと小学校の同級生であったことも重なり、この地に居を構える事となりました。こちらから神奈川病院へは車で約10分程の近距離でもあり、多勢の患者さんの精密検査や入院等をお願いしお引き受け頂いております。偶然は重なるもので、内科の前島潔先生とは大学の同期で、約40年間の付き合いの気安さから重症患者さんや、難治性患者さんはほぼ全員紹介させて頂き、本当に心強くもあり心より感謝致しております。さらに胸部外科の柿崎先生には月2回の肺癌X-P検討会で御診断、御助言を頂き、また、外科の諸先生方には嘱託医をしております老人ホームの入居者の胃瘻造設、各種手術等広範囲にお力をお借りしている次第です。これからも微力ではありますが、地域医療の為に「力^{りき}まず」「矯^{おご}らず」「出しゃばらず」の精神で頑張る所存ですので、神奈川病院のスタッフ皆様方には何卒よろしくお願ひ申し上げます。



病棟の紹介

1病棟

1病棟 小清水 晴美

1病棟は、循環器内科・呼吸器外科・消化器外科・内科等様々な科が混合しています。他に短期入院の受け入れも行なっており、近年の社会を示すように高齢者の方が多い病棟です。特徴としては、心不全・腎不全のような慢性期、重症、周手術期・終末期などの幅広い疾患をとり扱っています。

術式で1番多いのは胸腔鏡下手術であり、病名としては肺がん・気胸・多汗症が多くなっています。循環器ではペースメーカー植込術や内シャント造設術、消化器外科では胃・大腸がんや痔の手術症例があります。

様々な手術があるため、手術前・中・後がスムーズに進むように『手術を受けられる方のためのパンフレット』を作成し、これを用いてオリエンテーションを行なうようにしています。手術を受けるにあたって患者さんが禁煙や呼吸訓練など手術前から行う必要のあることを織り交ぜ、耳で聞くだけでなく目に残るようにして少しでも不安をとり除くようにしています。

重症・終末期の患者さんには入院生活を安楽に過ごしていただけるように耳を傾け、また家族にも声をかけるなどして関わり、安心できるよう努めています。

疾患や検査・処置も多種多様であるため、時に病棟内での業務が慌ただしくなることもありますが、病棟のキャッチコピーを忘れずに看護を提供し続けています。

キャッチコピーとは『ハートフル看護』であり、常に「温かい心でたくさんの愛を込めて看護を提供する」という意味が込められています。私たちはこの『ハートフル看護』を忘れずに患者さんに笑顔で接する事を心がけています。

2病棟

2病棟 岩淵 真由美

2病棟は整形外科病棟で変形性膝関節症や変形性股関節症などの骨関節疾患や椎間板ヘルニア、腰椎圧迫骨折などの脊椎疾患、また、リウマチなどの患者さんが多く、検査・手術・リハビリを目的とした看護を提供しています。

2病棟の特色は何と言ってもチームワークの良さだと自画自賛しております。20～50代と多種世代の中、ジェネレーションギャップも何のその20代若手のフットワークの良さ、30代中堅の愛想の良さ、それらを支える40代50代の知恵の深さと懐深さのコラボレーションがチームワークの土台となっているものだと思います。もちろん、気が強い看護師同士のことです。歯に衣着せぬ言葉のやりとりで普通の人は気後れするところでしょうが気心知れた猛者同士、お互いの看護観・人生観を意見交換しながらより良い看護を提供するため切磋琢磨している次第であります。

こんなことを言えるのも私事ながら3人目を出産し育児休暇もそこそこに産休明けで乳飲み子を抱えた私を猛者たちは、子育てを過ぎたものとして、これから子育てをするものとして温かく見守ってくれているからです。本当に親子共々おんぶに抱っこされています。こんな素敵な職場そうそうあるものではありません。家庭・子育てをしながら仕事できるのも家族はもちろんのこと職場の深い理解あってこそだと思っています。ここで働ける幸せを伝えて病棟紹介とさせていただきます。

さくら保育園

保育士 上村 彩

緑に囲まれて、自然が豊かな中にさくら保育園があります。看護師・医師をはじめ、神奈川病院に勤務している職員のお子さんをお預かりしています。お天気の良い日には、近くにあるリハビリ公園やスポーツ広場に行って遊んできたり、のんびりとお散歩を楽しんだりします。暖かい春がやってくると、てんとう虫やつくし、さくらの花が咲き、子供たちは摘んだ草花をお土産にして嬉しそうに、お母さんやお父さんに渡しています。

現在、さくら保育園には、0歳児2名、1歳児5名、2歳児4名、3歳児8名、4歳児2名、5歳児1名、6歳児8名、計30名の子供たちが登園しています。

夏には、プール遊びはもちろん、クッキング保育としてカレーライスを作り、野菜を切ったり、皮をむいたり貴重な体験をし、納涼会ではお祭り気分を味わいながら、スイカ割りをして、棒がスイカにあたると、目隠ししていた手拭いを思わずとって喜んでいる姿も見られました。その他に、1月のお店屋さんごっこには、準備から買い手売り手まで子供たちが参加し、終わった時には満足感でいっぱいのような様子でした。そして、運動会、遠足、クリスマス会、卒園式などと、年間を通してさまざまな行事が盛り沢山です!! 毎日、子供たちと過ごしていく中、沢山の発見や喜びがあり、また、さまざまな経験を一緒にしていくと、共感することがあるのでとても嬉しくなります。子供たちの明るい笑顔に囲まれながら、成長を楽しみ、日々を過ごしています。



閉校にあたって

教育主事 飯田 泰江

平成20年3月7日、神奈川病院附属看護学校はとうとう閉校の日を迎えました。

桜の名所を思わせる程の満開の桜の花の中、最後の卒業生となった29回生の入学とともに着任し、あっという間の3年間で過ぎようとしています。

私が着任時すでに、当校の今日の閉校は決まっておりました。これは国立病院時代からの附属看護師養成所の統廃合・再編成計画によるもので、看護教育体制の充実・看護教育の質の向上を図るための発展的解消としての閉校ということですが、当事者の学校・病院職員にとっては苦渋の了解であります。当校は附属養成所として、神奈川県内はもとよりわが国の看護師供給の一翼を担うとともに、当院の看護師確保に不可欠な存在であり多くの卒業生が当院に就職しており、閉校が惜しまれてなりません。

顧みますと、当校は昭和14年に傷痍軍人神奈川療養所附属看護婦養成所として発足以来、昭和28年に国立神奈川療養所附属准看護学院、昭和52年に国立療養所神奈川病院附属看護学校と過程変更をし、平成16年に独立行政法人国立病院機構神奈川病院附属看護学校と改称し現在に至るまで、その歴史は70年に及び、1900余名におよぶ卒業生を社会に送り出すことができました。こ



昭和14年傷痍軍人神奈川療養所附属看護婦養成所時代の看護学校 清心寮（旧看護宿舎）前にて

れも偏に院内・院外講師、実習でお世話になりました皆様方、学校・病院職員など、関係各位のご尽力、ご指導の賜と深く感謝申し上げます。

当校は設立から数え70年で、数々の思い出と歴史を残し閉校となります。諸先輩の築かれたこの伝統ある学校が閉校になるのは非常に残念なことです。しかし、培われてきた伝統や精神は無くなりません。卒業された1900余名の心の中に引き継がれていくと確信しています。閉校に当たり同窓生の皆様方には寂しくまた懐かしい思いがたくさんあると思います。一人ひとりその思いを大切にされて母校はなくなりますが皆様方の胸の中でいつまでも消えることなく残してほしいと願っています。



桜満開の現在の看護学校

当校の最後の教育主事として学生指導にあたり3年間ではありましたが、新鮮で若く熱い看護へのエネルギーに触れることができたことに対し学生一人ひとりに感謝するとともに、同窓生の皆様のご健康とますますのご活躍を祈念いたします。

テレパソロジーシステム導入

研究検査科 山崎直樹

テレパソロジーとは遠隔病理診断のことで、離れた2つの病院間をネット回線で結び、病理組織標本の顕微鏡画像を送信し、リアルタイムで病理診断をすることです。当院は、約50Km離れた東京都目黒区にある国立病院機構東京医療センターとネット回線が結ばれています。テレパソロジー導入により、手術中に摘出した臓器の病理標本顕微鏡画像を送信して、東京医療センターの病理診断医による診断結果が30分以内にわかるようになりました。送信した病理組織画像をもとに、神奈川病院の手術室の執刀医および検査室の検査技師と東京医療センターの病理診断医が、テレビ電話で病理診断のディスカッションをおこないます。病理診断の結果により、執刀医は手術の切除範囲を広げることや手術方法を変更することもあります。我が国においては、病理診断をおこなう病理医は大学病院や東京医療センターのような大きな病院にしかないため、近年遠隔診断を望む病院が増えています。当院はいち早くテレパソロジーを導入し、より高度な医療が可能となりました。



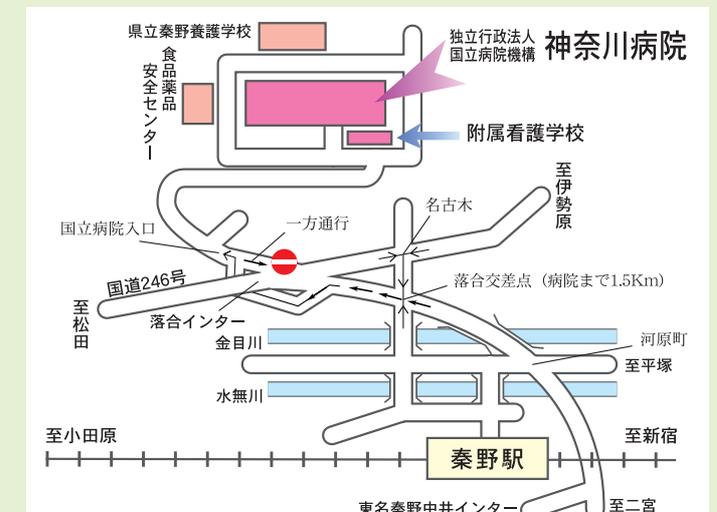
ネット回線で結ばれています



各科診療担当医表 平成20年4月1日現在

科別	曜日	月	火	水	木	金
総合内科		齊藤(真)	前島	前島	前島	齊藤(真)
腎臓内科			前島	前島	前島	
循環器内科		亀崎	吉田	松崎(秀)	亀崎井	田宮
呼吸器内科		大久保	篠田	宮本 9:30~	布施川	大久保
消化器内科		齊藤(真)				齊藤(真)
神経内科				植杉		大友
心療内科 精神科				松崎(淳) 4/16 午後		松崎(淳) 4/4 4/25 午前・午後 4/11 4/18 午前
小児科		萬木(晋) 石山渡辺 14:00~(予約制)	萬木(暁) 萬木(晋) 午後(予約制)	野村渡辺 午前(予約制) 14:00~(予約制)	野村渡辺 9:00~ 石山	萬木(晋) 萬木(暁)
	アレルギー科(小児)	萬木(晋) 渡辺 14:00~(予約制)	萬木(暁) 萬木(晋) 午後(予約制)	野村渡辺 午前(予約制) 14:00~(予約制) 第1・3予約外来 第2・4予約外来	野村渡辺 9:00~	萬木(晋) 萬木(暁)
外科		櫻井	当番制	徳原	当番制	櫻井 井水
消化器外科		櫻井		徳原		櫻井
呼吸器外科				加勢田 柿崎		加勢田 柿崎
脳神経外科			齋藤(良)		市末寄	
整形外科		山本 4/14 4/28 隅山 4/7 4/21 三宅	三宅 高見澤	草山 隅山	予約のみ	草山 高見澤
泌尿器科				長妻		田野口
皮膚科				川崎		
小児科(アレルギー治療教室)					野村渡辺 14:00~15:00(予約制)	
成育心身医療科				松崎(淳) 4/16 午後		松崎(淳) 4/4 4/25 午前・午後 4/11 4/18 午前

案内図



小田急線「秦野駅」下車神奈川中バス④番乗場「国立神奈川病院」行
終点(所要時間約15分)
※車利用
東名高速道路「秦野中井」より約10分
◎矢印の方向へお進み下さい。●は進入出来ません。

編集担当者

統括責任者：市末寄 潔
発行責任者：加勢田 静
編集責任者：徳竹 伸重 鈴木 英美
編集：齊藤 敏樹 細入 憲 上村 彩
手島 妙子 大庭 範子

※整形外科・山本先生は毎月2回不定期です。
※心療内科・松崎(淳)先生は、月毎に変更となるためご確認をお願いいたします。また、初診・予約外の方は事前にご連絡下さい。